

## 第 1 部あとがき

### Postscript

下地 秀樹

SHIMOJI Hideki

『総合人間学』電子ジャーナル版の刊行は第 7 号（2013 年）から始まり、今年度（2016 年度）で 5 年目となる。

本学会創立 10 周年の区切りに、市販もされる書籍『総合人間学』の体裁を変更することを契機として、電子ジャーナル版も以下のような方針で変更することを、前号（第 10 号）のこの項（あとがき）で予告した。

第一に刊行時期を早め、研究大会から次期研究大会へという学会としての一年度のなかで編集、刊行を完結させることを目標とする。

第二に、編成内容として書籍『総合人間学』に依拠する第一部を廃止し、一般研究論文等による編成にする。

第三に、電子ジャーナル本体の他に別冊を設け、年度内に 3 回ほど、学会内の研究会の成果等を掲載することで、現状以上の発信速度を担保し、研究交流を促す。

ここで「電子ジャーナル本体」と記しているものは、この方針通り、第 11 号を第 12 回研究大会の前の、本年（2017 年）5 月末に刊行する予定である。

第三の別冊刊行については、同じく前号「あとが

き」で、次の補足説明をしていた。

研究大会時のメインシンポジウム以外の企画、例えばすでに数年間継続している若手シンポジウムや、大会以外の時期に行われる研究会、談話会等で、各企画者が学会のニューズレターよりも詳細な報告や論文を発信する必要があると判断した場合には、年に 1 冊の電子版のみでは時期として遅くなる公算が大きい。そこで、電子版の別冊を設け、年に 3 回ほどの締め切りを決めて掲載文を重ねていき、電子版本体の刊行に合わせて 1 冊とすることも検討している。

本誌は、「電子ジャーナル本体」の別冊として刊行する最初の試みである。第 11 回大会（2016 年 5 月 21 日、22 日、於 國學院大学渋谷キャンパス）の「学会 10 周年記念フォーラム：この 10 年の試みから総合人間学における〈総合〉を問う」の諸報告と、「若手シンポジウム：〈病〉から考える社会と人間」の諸報告を収めている。

前号では 3 回ほど、つまり別冊 3 冊という予定を記し、さらに具体的な目安として、前者（フォーラム）を第二回目（2 冊目：1 月末頃）、後者（若手シンポ）を第一回目（1 冊目：9 月末から 10 月頃）と述べていたが、これはあくまでも「企画側の

事情が許せば」ということである。

前者については、穴見報告にあるように、本年（2017 年）2 月 25 日に延長戦ともいうべき研究会が開催される。そこで、本誌をこのタイミングで、第 11 号第 1 部として刊行することにした。

別冊を年度内に 3 冊というのは、将来的な最大目標であり、編集委員会としては、当面は必要に応じて情報発信を重ね、会員間の継続的な研究交流に資することにしたい。将来的な目標とは、例えば上柿報告が構想するような、小研究会の活性化と、そのためのプラットフォームの一端を担うことではないか、と考えている。

先に述べたように、次の電子ジャーナルは、第 11 号第 2 部として、従来の本体にあたる構成で、5 月末刊行を予定している。

電子ジャーナルはバックナンバーを含め、すべて論文・項目毎にダウンロードできるので、ぜひ活用していただきたい。

最後に、本誌の編集にあたり、本学会編集幹事の岩村祐希氏、本学会 HP 管理担当の吉田健彦氏にご尽力いただいた。ここに記して、心からの感謝の意を表したい。

（2017 年 1 月 31 日）

〔しもじ ひでき／立教大学／教育学〕